



海と緑にかこまれた街 「コタキナバル」



コタキナバル日本人学校 大原 穂乃花

コタキナバル日本人学校への赴任が決まったことを知らされたとき、「…コタキナバル?」と思ったことを今でも覚えています。渡航前は期待と不安が入り混じった気持ちでいっぱいでしたが、実際にこの場所を訪れ、豊かな自然や人の温かさにふれて、コタキナバルがどんどん好きになっていきました。

コタキナバルは、ボルネオ島北部にあるマレーシア、サバ州の州都です。世界有数のダイビングスポットや世界自然遺産のキナバル山等、美しい自然に囲まれている場所です。ここでは主にマレー系、中華系、インド系の人々が暮らしているため、様々な文化を味わうことができます。聞こえてくる言葉も、英語、マレー語、中国語と様々です。この他民族性により、多くの宗教的行事（イスラム教のラマダン〈断食〉やヒンドゥー教のディパバリ〈ヒンドゥー教暦新年のお祝い〉など）が行われています。その時々町中が飾り付けられ、お祝いの雰囲気になるのも、マレーシアならではの面白さの一つでした。

コタキナバル日本人学校には、小学1年生から中学3年生まで20名程度が在籍しています。小人数だからこそ、児童生徒・教職員が家族のような関係で、学年の垣根を越えて学び合っています。

今年度は「発信力」というテーマのもと、「HUSTLE! 発する!」を合言葉に様々な活動に取り組みました。中でも現地校交流では、4校の現地校と交流し、マレーシアの文化を教えてもらったり、日本文化を発信したりしました。始めのころは、緊張や言葉が伝わらない不安から、積極的に関わることができなかつた子どもたちでしたが、回数を積み重ねていくうちに緊張がほぐれ、学習した英語やマレー語、ジェスチャーを使いながら、自ら関わろうとする姿が見られるようになっていきました。交流会後、子どもたちは必ず「楽しかった〜!」と話します。国や文化、言語の違う人たちと、楽しい時間を共有できた経験はきっと、子どもたちにとって大きな財産になると思っています。

マレーシアでは日本のアニメが大人気で、「日本が好き!」と話してくれる人がたくさんいました。日本の魅力をどんどん広めていくとともに、マレーシアの魅力も発信できるよう、今後も子どもたちと共に頑張っていきたいと思います。



エメラルドグリーンの海 (サビ島)



世界自然遺産のキナバル山



折り紙で一緒に手裏剣を作りました



マレーシアの伝統的な遊び (チョンカ)